

令和3年度「うるま市教育実践グランプリ 推薦部門」応募用紙

令和3年度「教育実践グランプリ 推薦部門」に下記の者を推薦します。

うるま市立 勝連小学校
校長 金城通彦

<p>ふりがな 応募者氏名</p>	<p>ちねん みちよ 知念 道代</p>
<p>所属学校(園)</p>	<p>うるま市立 勝連小学校</p>
<p>推薦の根拠 (校長記載)</p>	<p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上推進リーダーとしての功績 ～長期に渡る本校の学力向上に係る取り組みの牽引～ 2 パイオニアティーチャーとしての功績 ～「模範的な教師像」を体現化し職員へ伝える～ 3 児童理解に基づいた生徒指導 ～支持的風土のある学級経営～ 4 温かな職場環境づくりへの尽力 ～職員間のコミュニケーションづくりとアットホーム環境づくりへの気配り～ <p><推薦の根拠></p> <p>本教諭は、本校勤務5年間の長期に渡り、上記の活動内容において、大変優れた実践を重ね、児童はもとより、同僚教員にも多大なよりよい影響をもたらし、本校の教育活動・学校運営に大きく尽力して頂いている。</p> <p>特に、本校の「学力向上推進」に係る取り組みへの功績は大変大きく、学力向上推進リーダーとして、学推担当、授業改善リーダー等の公務分掌を在任期間全てにおいて担っており、沖縄県やうるま市の教育施策に基づいた「学力向上」の取り組みの推進の中心となって、職員を牽引していることは、本教育実践グランプリの推薦部門に応募資格に値すると考える。</p> <p>また、本教諭は、職場のアットホームな環境づくりへ向け、きめ細やかな配慮と同僚教諭への相談役としてのかかわりを通して、過ごしやすい職場の雰囲気づくりに尽力されており、その点でも、高く評価すべき実践を継続されている。</p> <p>以上のことから、本教諭の長年の本校の教育活動及び学校運営に係る大きな功績を「足あと」として明記することで、本校職員のみならず、本市の各学校の教員の模範として、本教諭の実践を参考にして頂きたいと考え、令和3年度「教育実践グランプリ 推薦部門」へ、本教諭を推薦する。</p>

教師の活動の概要	<教師の活動と成果>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>在任期間の校務分掌</p> <p>平成29年度〔1年目〕学力向上推進担当 特別支援担任(肢体不自由)</p> <p>平成30年度〔2年目〕学力向上推進担当 1年担任</p> <p>令和元年度〔3年目〕学力向上推進担当 授業改善リーダー</p> <p>令和2年度〔4年目〕学力向上推進担当 授業改善リーダー</p> <p>令和3年度〔5年目〕学力向上推進担当 1年担任</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>公開授業、実践発表等</p> <p>令和元年：授業改善リーダー研究授業〔算数〕 ※全職員対象に授業公開</p> <p>令和2年：授業改善リーダー研究授業〔算数〕 ※全職員対象に授業公開</p> <p>令和3年：うるま市学推与勝中ブロック授業研究会〔特別活動〕授業者</p> </div> <p>I 学力向上推進リーダーとしての功績</p> <p style="text-align: center;">～5年間に渡る本校の「学力向上」に係る取り組みの牽引～</p> <p>(1) 平成29年度の実践から</p> <p>「うるま市実践9項目」と「サポートガイドを活用した勝連スタンダード」の実践による授業改善を推進し、「授業改善6つの方策」に基づいた「分かる授業づくり」を全校体制で進めた。特に、「表現力・読解力・言葉の力を高める指導」に重点を置き、朝のドリル学習、補習指導の工夫、学力向上月間や家庭学習強化月間の設定など、確かな学力の向上を目指す取組を充実を目指し取り組んだ。</p> <p>その成果として、①学校課題であった学習規律が整い、落ち着いた学習態度で学習に取り組むことができてきた、②家庭学習が習慣づいた児童の割合が増えた、などの児童の変容が見られた。また、教師評価においても、「日々の授業で、まとめ・ふりかえりができていますか」の回答で、肯定的な回答が85%を上回っており、③授業スタンダードに沿った授業改善が進められるようになった。〔平成29年度学力向上推進実践報告書参照〕</p> <p>本教諭は、平成28年度までの本校の学推の取組の成果を継続しつつも、教育行政の施策に基づいた具体的な授業改善の推進に力を入れ、職員の「授業改善」への意識を高めるために尽力した。</p> <p>(2) 平成30年度の実践から</p> <p>平成30年度は、前年度の課題から基礎学力の定着を重点事項として掲げ、取組の推進を行っている。「基礎・基本の技能の習得」を目的に、朝のドリル学習、ハートフルタイム（給食準備時間の個別補習）の導入、ぐんぐんタイム（昼帯時間での補習）、放課後の補習等、個別指導の充実を図るための補習の時間を週時程内に設定し、各取組を工夫しながら力を入れ、実践した。また、家庭との連携を図り、家庭での過ごし方の改善を目的に、「ノーテレビ・ノーゲームデー」を長期スパンで取り組む計画案を作成し、生活リズムについての意識の向上に努めた。</p> <p>その成果として、①学習規律が整い、落ち着いて授業に参加する雰囲気が整ったこと、②家庭学習推進週間の取り組みを通して、家庭学習の定着率の向上や学習の内容の充実が図られたこと、③県到達度調査（算数）において、どの学年も県平均との差が縮まり、学力面の底上げが図れたこと、④昼帯タイムの導入により、基礎学力の向上の効果が各種調査の結果に結びついたこと、⑤めあて・まとめ・ふりかえりに関するアンケートにおいて、「できた」と肯定的に回答した割合が児童、教師とも8割以上の回答が得られたこと、などが挙げられる。〔平成30年度学力向上推進実践報告書参照〕</p> <p>本教諭は、前年度の課題克服を目指し、全職員で一丸となった「基礎・基本の定着」を図る具体的取組計画を立案し、学校と家庭が一体となった取組の推進を図るために尽力した。</p>

教師の活動の概要

(3) 平成31年度/令和元年度の実践から

令和元年度は、授業改善の推進及び指導の「統一・徹底・連動」の工夫を目標に掲げ、前年度成果の上がった取り組みをさらに充実させるとともに、家庭・地域と連動した取組や豊かな心の育成を図る取り組みの推進に力を入れている。

特に、児童会活動の充実を図る取組は、各委員会が創意工夫を凝らし、豊かな学校生活を送れるような雰囲気づくりを目指して取り組んでいる。具体的な取組として、「HAPPY言葉ランキング」「運動会を盛り上げよう」「スリッパ並べリレー」「ミッキーを探せ」「あいさつ運動」など、児童の主体的な活動につながるような指導を展開している。また、体力の向上を図る取組についても、外遊びを奨励し、「校内長縄大会」「歯みがき指導」など、工夫を凝らした取組も行っている。

令和元年度の成果として、①全国学力学習状況調査では、国語における正答率の向上や無答率の向上、②平均読書冊数が本市平均との比較で上回っていること、③外遊びの奨励により、体を動かす機会が増えたこと等が挙げられる。〔令和元年度学力向上推進実践報告書参照〕

本教諭の働きのおかげで、確かな学力の定着を図る取組を推進しつつ、学力向上推進に係る「知・徳・体」の各取組の充実に向けて働きかけ、総合的に「児童の生きる力の育成」を視点におき、取組の推進をリードし、成果を引き出すことができた。

(4) 令和2年度の実践から

令和2年度は、学力向上推進テーマを『主体的に学び、粘り強く取り組むことのできる児童の育成』に変更し、組織的に学校課題の解決に向けて取組を目指し、各実践を展開している。前年度の学力調査結果から、学力面の課題が浮き彫りになったことから、組織的な授業改善を推進するために、校内研修と連動した実践的な取組に重点を置いて取り組んでいる。校内研修内容の「ユニバーサルデザインの授業」の理論を授業改善の視点に加え、各担任が授業実践を行うことで、日々の授業の充実につなげた。また、昨年度の成果である、「知・徳・体」のバランスの取れた取組の充実が継承しつつ、児童や教師の実態を客観的なデータとしてまとめ、考察することで、取組の成果と課題を明らかにしていくことにも取り組んでいる。

その成果として、①諸学力調査において、正答率の県との差が昨年度より縮まり、学年・教科によっては県平均を上回る成果が得られたこと、②家庭学習推進週間の取り組みにより、家庭学習が習慣化している児童の割合が増えたこと、③全校一事徹底の取り組みで「後始末の徹底」に取り組んだ結果、意識的に後片付けに取り組む児童の割合が増えたこと、などが挙げられる。〔令和2年度学力向上推進実践報告書参照〕

本教諭は、各種学力調査のデータ分析や、児童・教師の実態調査から、具体的な成果と課題を明らかにし、全職員でその分析結果を共有している。そのことで、取組の工夫改善につながり、ひいては、取組の充実につながっていった。また、明らかとなった学校課題を次年度計画の作成に生かし、学力向上推進の取組計画を体系的なものとして改善することができた等の実績は大変素晴らしいものである。

(5) 令和3年度の実践から

令和3年度は、教育活動の原点に戻り、学推テーマを『心豊かでたくましく、主体的に行動するわしの子の育成』と刷新し、教育目標の具現化を目指した取組の推進を行えるような計画でスタートした。取組の重点として、①学推の取組を推進するプロジェクトチームを機能的なものとし、組織的な取組が円滑に行えるようにすること、②児童、教師、保護者が同じ目標を目指して実践に取り組み、評価・改善を図っていくことを設定してある。

①に関しては、これまでは、各校務分掌の担当職員のみで推進していた学推の取組を、チーム協働で推進できるように、組織体制を見直し、「学びプロジェクト」「支援プロジェクト」「育ちプロジェクト」の3プロジェクトチームを編成し、チームで取組の実施方法を検討

し、実態に基づいた評価・考察ができるようにした。さらに、全ての取組の年間計画を可視化し、取組内容や取組の進捗状況が捉えられるようにした。その結果、PDCAマネジメントサイクルに沿った取組運営が可能となり、一つ一つの取組が充実してきている。

【図1 学力向上推進サイクル:職員室に掲示】

また、②に関しては、学校教育目標の具現化するため、「目指す児童の姿を引き出せたかどうか」を、児童・教師・保護者が同じ視点で評価することで、目指す姿の共有化が図られ、本校で育てたい力について、意識の向上につながると考えている。

教師の活動の概要

学校教育目標の具現化を目指して									
総括目標	視点	指標	NO	自己評価			教師	保護者	主な教育活動(例)
				低学年	中学年	高学年			
健康で、たくましく、主体的に行動する子	心身ともに健康で、体力を向上させる	自分の体について考える	1	自分の体について、いろいろな動きができる。	自分の体について、いろいろな動きができる。	自分の体について、いろいろな動きができる。	子どもが「自分の体」を大切にするために、様々な動きを体験し、自分の体を大切にしようとする。	子どもの「自分の体」について、様々な動きを体験し、自分の体を大切にしようとする。	運動会、体育祭、健康診断、健康講座
		生活リズムを整え、健康的に過ごす	2	自分の生活リズムを整え、健康的に過ごすことができる。	自分の生活リズムを整え、健康的に過ごすことができる。	自分の生活リズムを整え、健康的に過ごすことができる。	毎日の生活リズムを整え、健康的に過ごすことができる。	毎日の生活リズムを整え、健康的に過ごすことができる。	朝の挨拶、朝の読書、朝の運動、朝の清掃
		命を大切に、明るく過ごす	3	自分の命を大切に、明るく過ごすことができる。	自分の命を大切に、明るく過ごすことができる。	自分の命を大切に、明るく過ごすことができる。	自分の命を大切に、明るく過ごすことができる。	自分の命を大切に、明るく過ごすことができる。	命の大切さについて、様々な活動を行う。
		自分が安全にすごせるよう努力する	4	自分が安全にすごせるよう努力することができる。	自分が安全にすごせるよう努力することができる。	自分が安全にすごせるよう努力することができる。	自分が安全にすごせるよう努力することができる。	自分が安全にすごせるよう努力することができる。	安全な生活を送るために、様々な活動を行う。
		健康のことを考え、バランスの良い食事をとる	5	自分の健康のことを考え、バランスの良い食事をとることができる。	自分の健康のことを考え、バランスの良い食事をとることができる。	自分の健康のことを考え、バランスの良い食事をとることができる。	自分の健康のことを考え、バランスの良い食事をとることができる。	自分の健康のことを考え、バランスの良い食事をとることができる。	健康な生活を送るために、様々な活動を行う。
		体のことをよく知り、体を鍛える	6	自分の体のことをよく知り、体を鍛えることができる。	自分の体のことをよく知り、体を鍛えることができる。	自分の体のことをよく知り、体を鍛えることができる。	自分の体のことをよく知り、体を鍛えることができる。	自分の体のことをよく知り、体を鍛えることができる。	自分の体のことをよく知り、体を鍛えることができる。
心算がたくましく、主体的に行動する子	よき考えの力を身に付ける	自分の思いや考えを伝える	1	自分の思いや考えを伝えることができる。	自分の思いや考えを伝えることができる。	自分の思いや考えを伝えることができる。	自分の思いや考えを伝えることができる。	自分の思いや考えを伝えることができる。	自分の思いや考えを伝えることができる。
		気づき、よく考える	2	自分の気づき、よく考えることができる。	自分の気づき、よく考えることができる。	自分の気づき、よく考えることができる。	自分の気づき、よく考えることができる。	自分の気づき、よく考えることができる。	自分の気づき、よく考えることができる。
		思いや考え、友達と話し合う	3	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	4	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	5	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	6	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
礼儀正しい子	子どもの発達支援	心算がたくましく、主体的に行動する子	1	自分の心算がたくましく、主体的に行動することができる。	自分の心算がたくましく、主体的に行動することができる。	自分の心算がたくましく、主体的に行動することができる。	自分の心算がたくましく、主体的に行動することができる。	自分の心算がたくましく、主体的に行動することができる。	自分の心算がたくましく、主体的に行動することができる。
		思いや考え、友達と話し合う	2	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	3	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	4	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	5	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
		思いや考え、友達と話し合う	6	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。	自分の思いや考え、友達と話し合うことができる。
ねばり強い子	自律性(根拠強さ)を育む	自分の夢や目標に向かって、精進する	1	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。
		夢や目標に向かって、精進する	2	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。
		夢や目標に向かって、精進する	3	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。
		夢や目標に向かって、精進する	4	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。
		夢や目標に向かって、精進する	5	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。
		夢や目標に向かって、精進する	6	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。	自分の夢や目標に向かって、精進することができる。

【図2 教育目標を具現化するための育成評価:児童/教師/保護者】

さらに、これまでの学推の取組の成果を生かし、創意工夫した取組の改善を図り、実践することも行っている。

このような取組の成果として、①学力調査における県平均との差で大幅な改善が見られたこと、②目指す児童の姿を設定し、目標に据え、児童・教師・保護者が一体となり取組を推進することで、「統一・徹底・連動」の図られた実践に結びついていること、③教師が、学推の取組に自分事として捉え、チームで協力し合っよりよい取り組みにしていこうという雰囲気が高まってきている、などの成果が見られる。〔12月段階までの成果として〕

本教諭は、今年度勤務5か年の集大成として、これまでの成果を生かしつつ、課題改善に向けた組織改革、取組改革を率先して実践し、情報の共有を図るために尽力している。

このように、足掛け5か年の学力向上を牽引するリーダーとして、職員の中核となり、本校の学力向上を一手に背負ってきた本教諭の功績は、特筆すべきものである。

2 パイオニアティーチャーとしての功績

～「模範的な教師像」を体現化し職員へ伝える～

本教諭は、本校勤務期間で2年間は、「授業改善リーダー」として、授業改善推進の中心となり、本校の取り組みをリードしてきた。その中で、積極的な授業公開、学級経営サポート、支援の必要な児童への対応サポートなどの取り組みに尽力している。その中で、他職員へ、学習指導、生徒指導などの指導技術、児童理解に基づいた支援スキル、校務分掌等の職務遂行方法など、様々な分野において模範を示している。

(1) 積極的な授業公開

まず、授業公開においては、若手教諭を中心に、授業〔主に算数〕を示すことで、授業づくりのノウハウを体現した形で伝え、本県の進める目指す授業像の具現化を目指した授業づくりの推進に大きく貢献している。

また、授業改善リーダーとしての役割を自覚し、全ての学年の算数の授業に入り、TTを通じた協働の授業づくり、T1としての模範的授業の公開、T2としての授業サポートと授業のふりかえりの実践など、算数の授業改善に大きく尽力した。

さらに、職員連絡会、授業改善委員会、職員会議、校内研などの場を活用して、授業改善に係る情報発信を積極的に行い、学校全体の授業改善への意識を高める働きも大きい。

(2) 学級経営サポート

本教諭は、授業改善リーダーとしての校務分掌上の特性を生かし、全ての学年にかかわっていることから、学級が落ち着かない状況の際には、その学級に入り、授業をはじめ生徒指導などの学級経営面で担任をサポートする役割も担っていた。

本教諭が、学級経営をサポートできる組織体制は、各学級担任の安心感を生み、学級の雰囲気を改善し落ち着かせるなどの成果を引き出している。また、学習指導や生徒指導の方法について困り感を抱いている職員の相談窓口となり、本教諭のこれまでの経験を生かした助言やアドバイスを積極的に提供してもらった。このような取組を行うことで、本校職員からの信頼も厚くなり、模範となる姿として、よりよりリーダーとしての役割を担ってくれた。

(3) 支援の必要な児童へのサポート

本教諭は、学級に入れない、落ち着かないなど、支援の必要な児童に対し、個に応じた対応を行う役割も担ってくれた。個々の児童の様子を見とり、じっくり話を聞いて、時にはじっと待ったり、時には、一緒に学習を進めたり、時には、個別に学習指導に当たったり等、効果的なかわり方で、児童が落ち着いて学校生活へ向かう姿勢を整えるための支援に尽力している。

この様に、学校全体の教師や児童へのかかわりを通して、本校全教師への学習指導、生徒指導などの指導技術の向上に大きく寄与してくれた。

教師の活動の概要

3 児童理解に基づいた生徒指導 ～支持的風土のある学級経営～

本教諭の学級経営は、一人一人を大切に、深い児童理解に基づいた個に応じた指導を心がけ、生徒指導3機能に沿った教育活動の展開に努めることを方針に掲げ、子どもに寄り添いながら、励まし・認める教育実践に努め、教室には温かな空気が満ち溢れている。また、一人一人の良さを認め合い、支え合う支持的風土のある学級づくりにも努め、子どもたちの思いを大切にしながら、集団の目標を意識しながら、よりよい生活づくりを目指していく、学級集団づくりに努めている。この実践は、本校教職員の模範として大きな影響を与えている。

(1) 学級目標を中心に据えた学級経営

◆ 学級活動(1) 『にこにこえがおあきまつりをしよう』



【図3 学級会での指導】



【図4 学級目標を意識した活動づくり掲示】

本実践は、うるま市学推ブロック授業研究会で、本教諭が担当する1年1組の学級活動(1)を授業公開した実践である。子どもの「幼稚園生との交流会で、自分たちが生活科でつくった秋の素材を生かしたおもちゃを使って、楽しませてあげたい」という思いを大切に、学級目標の中に示される「笑顔」「楽しく」「仲良く」のキーワードを意識して、クラスみんなで交流会の計画を立てさせる内容であった。授業では、子どもたちは、自分の考えたことを、しっかり伝えるとともに、みんなにとって「どの意見がいいか」しっかり考え、合意形成を図りながら集団決定することができた。集会では、自分たちで作った活動であることから、子どもたちは、自分事として一生けん命に取り組み、仲間と仲良く協力し合って活動する姿が見られた。本実践において、特に大きな成果として、

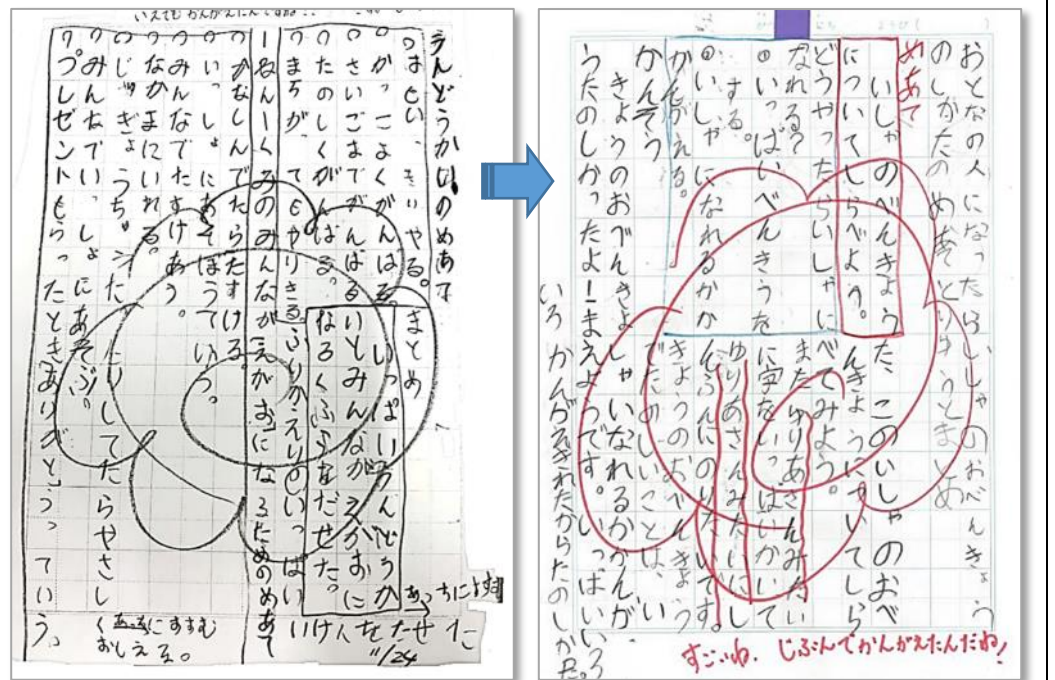
- ①子どもが自分事として活動に参加し、仲間と協力し合ってよりよい活動にしようと取り組む姿が見られた。
- ②子どもたちは、学級目標を意識して活動することで、「笑顔」「仲良く」「楽しく」の力がパワーアップできたと実感させることができた。
- ③カリキュラムマネジメントを意識した指導計画を立て、合科的に指導することで、子どもたちに教科の枠を超えた汎用的な力の育成が図られた。
- ④特別活動の指導の中で、ICTの効果的な活用場面を明示することができた。
- ⑤PDCAサイクルに基づいた活動をつなぐことで、全ての教育実践の中で、本校のめざす児童の姿(学校教育目標)に迫ることができた。

などが挙げられる。このような様々な成果ををまとめ、学推中学校ブロック、本校職員へ、共有を図ることができたことは、大きな功績となったといえる。

(2) 子どもの思いを大切にされた教育活動

本教諭の学級には温かな支持的風土がつけられている。一人一人の子どもの声に耳を傾け、気持ちや思いに寄り添いながら指導に当たる姿を、子どもたちが模倣し、友だち同士のかかわり方に生かしていくからである。特に、「勇気づけのボイスシャワー」の実践が至る所に見られ、子どもを価値づけ、称賛し、励ましていくことが日常化されている。そのことで、学級の子どもたちも、友だちのよさに気づかされ、いいことをマネして、自分もできるようになろうという、主体的な気持ちを引き出している。その実践は、子どもたちの日記や作品などの記述などからも読み取れる。〔次頁に例示する〕

教師の活動の概要



【図5 運動会でがんばることを書いた児童の日記】

【図6 お友達よさを生かして、自分の作品に生かした日記】

図5の日記は、1学年の児童が自主的に書いてきたがんばりノートである。運動会を目前に控え、自分なりに目標を立て、実践に向かおうとする姿が見える。さらに、学級のみなが笑顔になる運動会にするためにどうするか、を自分なりに考えて記述している。運動会という学校行事に向け、自分、さらには、学級みんなが高まるために自分のできることを考えている。本教諭は、そのよさに気づき、学級の子どもたちに伝えた。そのことで、別の児童が、そのよさを生かして、自分の将来の夢について考え、自分のできることを1年生なりに考えてきた(図6)。その中で、友だちのいいところを参考にし、よりよい自分を目指していこうとする姿が見られる記述があった。

上記のような児童の「学びに向かう姿」は、教師の働きかけなしでは、なかなか引き出せない。本教諭が、日ごろ学級で目標に向かって活動に取り組ませることや、活動のよさ、考えのよさをしっかり認め、価値づけ、それを周囲の子どもたちに広げていく実践を継続的に行っているから引き出したものであると考える。このような日常的な実践は、子どもたち一人一人の可能性を引き出し、ひいては、主体的に学びに向かう態度を引き出すものである。教科指導の指導技術だけではなく、こうした実践は、他の先生方が参考になる指導スキルだといえる。

本教諭は、個々の子どもへ寄り添った指導、集団を伸ばし高めていく指導に長けている。その実践の一つ一つは、教師として必要な力を高めるために、大変意義の深いものである。本校では、本教諭が、教師として児童と関わる姿から、多くの後輩教師が学び、参考にしたり、アレンジしたりしながら教育実践に向かっている。こうした影響力は本校の教師力の向上にも大きく貢献している。

4 温かな職場環境づくりへの尽力

～職員間のコミュニケーションづくりとアットホーム環境づくりへの気配り～

(1) 職員間のコミュニケーションづくり

本教諭は、職員同士のコミュニケーションの中心として、職員の福利厚生企画、教育活動の提案前の話し合い、困り感の相談など、様々な場面で他の同僚職員と調整を行いな

教師の活動の概要

<p>教師の活動の概要</p>	<p>からコミュニケーションを図っている。本教諭の人柄についても温和で、常に前向きに取り組もうとする姿勢で、仕事に向き合っていることから、同僚からの信頼も厚い。5か年という長期に渡り、学力向上推進の担当として、その人柄を十分にいかしつつ、細やかな調整を行い、同僚の先生方と協力体制を築いてくれた。</p> <p>以上のことは、本校の職場内での人間関係を豊かにし、協働して、目指す目標に向かって取り組める教師集団づくりに貢献した実績として評価に値するものであり、職務上の校務遂行以上に、大変価値あるものだと考える。</p> <p>(2) アットホーム環境づくりへの気配り</p> <p>本教諭の勤務態度についても、特筆すべきことがある。本教諭は、早朝に出勤し、職員室の湯茶の準備を毎朝欠かさず行っている。他の職員は、いつも、明るく整備された温かな環境の中へ出勤してくるのである。このような細やかな配慮が、職員室を明るくし、校務の効率を上げることに一役買っていることは言うまでもない。</p> <p>また、困っていたり、大変そうにしている同僚を見つけると、さりげなく声をかけたり、手伝ったりするなど積極的にサポートを行っている。こうした働きかけは、他の職員にもよい刺激を与え、何か作業があるときや、準備で手間がかかりそうなどきなど、召集をかけずとも自然に助け合うアットホームな雰囲気が作られている。</p> <p>本教諭は、その面からも職場の環境をよりよくしていくことに、大きな影響を与えており、楽しい職場づくりの先駆的な役割を担ってくれている。</p> <p>5 まとめ</p> <p>以上のように、本教諭は、本校勤務の在任期間に、本校の教育活動の発展や職場の同僚教員の資質能力の向上、さらには、人間関係づくりに至るまで、数多くの功績を残し、多大なよりよい影響をもたらしてくれた。そして、教師としての模範となり、後輩教員の育成にも尽力してくれた。このことは、本校職員のみならず、本市の各学校の教員の模範として、本教諭の実践を参考にしてもらえるものだと確信している。</p> <p>ぜひ、本教諭のこれまでの功績を称えて頂き、本市の教職員への資質能力の向上の一策として、各学校へ実践を共有して頂けるよう、お願いしたいと考える。どうか、ご高配を賜りますよう、お願いいたします。</p>
-----------------	--